

負擔附贈與ニ付テハ贈與者ハ其負擔ノ限度ニ於テ賣主ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第五百五十一條 定期ノ給付ヲ目的トスル贈與ハ贈與者又ハ受贈者ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百五十二條 負擔附贈與ニ付テハ本節ノ規定ノ外雙務契約ニ關スル規定ヲ適用ス

第五百五十三條 贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ヲ生スヘキ贈與ハ遺贈ニ關スル規定ニ從フ

第三節 賣買

第一款 總則

第五百五十四條 賣買ハ當事者ノ一方カ或權利ヲ相手方ニ移轉スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其代金ヲ拂フコト

ヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百五十五條 賣買ノ一方ノ豫約ハ相手方カ賣買ヲ完結スル意思ヲ表示シタル時ヨリ賣買ノ效力ヲ生ス

前項ノ意思表示ニ付キ期間ヲ定メサリシトキハ豫約者ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ賣買ヲ完結スルヤ否ヤヲ確答スヘキ旨ヲ相手方ニ催告スルコトヲ得若シ相手方カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ豫約ハ其效力ヲ失フ

第五百五十六條 買主カ賣主ニ手附ヲ交附シタルトキハ當事者ノ一方カ契約ノ履行ニ著手スルマテハ買主ハ其手附ヲ拋棄シ賣主ハ其倍額ヲ償還シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百四十四條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適

用セス

百九十二

第五百五十七條 賣買契約ニ關スル費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス

第五百五十八條 本節ノ規定ハ賣買以外ノ有償契約ニ之ヲ準用ス但其契約ノ性質カ之ヲ許ササルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣買ノ效力

第五百五十九條 他人ノ權利ヲ以テ賣買ノ目的ト爲シタルトキハ賣主ハ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スル義務ヲ負フ

第五百六十條 前條ノ場合ニ於テ賣主カ其實却シタル權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但契約ノ當時其權

利ノ賣主ニ屬セスル事ヲ知リタルトキハ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第五百六十一條 賣主カ契約ノ當時其實却シタル權利ノ自己ニ屬セサルコトヲ知ラサリシ場合ニ於テ其權利ヲ取得シテ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ賣主ハ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ買主カ契約ノ當時其買受ケタル權利ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知リタルトキハ賣主ハ買主ニ對シ單ニ其實却シタル權利ヲ移轉スルコト能ハサル旨ヲ通知シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百六十二條 賣買ノ目的タル權利ノ一部カ他人ニ屬スルニ因リ賣主カ之ヲ買主ニ移轉スルコト能ハサルトキハ買主ハ其足ラサル部分ノ割合ニ應シテ代金ノ減額

ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミナレハ買主カ之ヲ
買受ケサルヘカリシトキハ善意ノ買主ハ契約ノ解除ヲ
爲スコトヲ得

代金減額ノ請求又ハ契約ノ解除ハ善意ノ買主カ損害賠
償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

第五百六十三條 前條ニ定メタル權利ハ買主カ善意ナリ
シトキハ事實ヲ知りタル時ヨリ惡意ナリシトキハ契約
ノ時ヨリ一年內ニ之ヲ行使スルコトヲ要ス

第五百六十四條 數量ヲ指示シテ賣買シタル物カ不足ナ
ル場合及ヒ物ノ一部カ契約ノ當時既ニ滅失シタル場合
ニ於テ買主カ其不足又ハ滅失ヲ知ラザリシトキハ前二
條ノ規定ヲ準用ス

第五百六十五條 賣買ノ目的物カ地上權、永小作權、地役權、
留置權又ハ質權ノ目的タル場合ニ於テ買主カ之ヲ知ラ
ザリシトキハ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スル
コト能ハサル場合ニ限り買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコト
ヲ得其他ノ場合ニ於テハ損害賠償ノ請求ノミヲ爲スコ
トヲ得
前項ノ規定ハ賣買ノ目的タル不動産ノ爲メニ存セリト
稱セシ地役權カ存セザリシトキ及ヒ其不動産ニ付キ登
記シタル賃貸借アリタル場合ニ之ヲ準用ス
前二項ノ場合ニ於テ契約ノ解除又ハ損害賠償ノ請求ハ
買主カ事實ヲ知りタル時ヨリ一年內ニ之ヲ爲スコトヲ
要ス

第五百六十六條 賣買ノ目的タル不動産ノ上ニ存シタル

先取特權又ハ抵當權ノ行使ニ因リ買主カ其所有權ヲ失
ヒタルトキハ其買主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得
買主カ出捐ヲ爲シテ其所有權ヲ保存シタルトキハ賣主
ニ對シテ其出捐ノ償還ヲ請求スルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ買主カ損害ヲ受ケタルトキハ其
賠償ヲ請求スルコトヲ得

第五百六十七條 強制競賣ノ場合ニ於テハ競落人ハ前七
條ノ規定ニ依リ債務者ニ對シテ契約ノ解除ヲ爲シ又ハ
代金ノ減額ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ債務者カ無資力ナルトキハ競落人ハ
代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ全部又
ハ一部ノ返還ヲ請求スルコトヲ得
前二項ノ場合ニ於テ債務者カ物又ハ權利ノ欠缺ヲ知り

テ之ヲ申出テス又ハ債權者カ之ヲ知りテ競賣ヲ請求シ
タルトキハ競落人ハ其過失者ニ對シテ損害賠償ノ請求
ヲ爲スコトヲ得

第五百六十八條 債權ノ賣主カ債務者ノ資力ヲ擔保シタ
ルトキハ契約ノ當時ニ於ケル資力ヲ擔保シタルモノト
推定ス

辨濟期ニ至ラサル債權ノ賣主カ債務者ノ將來ノ資力ヲ
擔保シタルトキハ辨濟ノ期日ニ於ケル資力ヲ擔保シタ
ルモノト推定ス

第五百六十九條 賣買ノ目的物ニ隱レタル瑕疵アリタル
トキハ第五百六十五條ノ規定ヲ準用ス但強制競賣ノ場
合ハ此限ニ在ラス

第五百七十條 第五百三十二條ノ規定ハ第五百六十二

條乃至第五百六十五條及ヒ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五百七十一條 賣主ハ前十二條ニ定メタル擔保ノ責任

ヲ負ハサル旨ヲ特約シタルトキト雖モ其知リテ知レサ
リシ事實及ヒ自ラ第三者ノ爲メニ設定シ又ハ之ニ讓渡
シタル權利ニ付テハ其責ヲ免ル、コトヲ得ス
第五百七十二條 賣買ノ目的物ノ引渡ニ付キ期限アルト

キハ代金ノ支拂ニ付テモ亦同一ノ期限ヲ附シタルモノ
ト推定ス

第五百七十三條 賣買ノ目的物ノ引渡ト同時ニ代金ヲ拂
フヘキトキハ其引渡ノ場所ニ於テ之ヲ拂フコトヲ要ス

第五百七十四條 未タ引渡ササル賣買ノ目的物カ果實ヲ
生シタルトキハ其果實ハ賣主ニ屬ス
買主ハ引渡ノ日ヨリ代金ノ利息ヲ拂フ義務ヲ負フ但代

金ノ支拂ニ付キ期限アルトキハ其期限ノ到來スルマテ
ハ利息ヲ拂フコトヲ要セス

第五百七十五條 賣買ノ目的ニ付キ權利ヲ主張スル者ア
リテ買主カ其買受ケタル權利ノ全部又ハ一部ヲ失フ虞
アルトキハ買主ハ其危險ノ限度ニ應シ代金ノ全部又ハ
一部ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主カ相當ノ擔保ヲ供シ
タルトキハ此限ニ在ラス

第五百七十六條 買受ケタル不動産ニ付キ先取特權、質權
又ハ抵當權ノ登記アルトキハ買主ハ滌除ノ手續ヲ終ハ
ルマテ其代金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得但賣主ハ買主ニ對
シテ遲滞ナク滌除ヲ爲スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第五百七十七條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ買主ニ對シ
テ代金ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二款 買戻

第五百七十八條 不動産ノ賣主ハ賣買契約ト同時ニ爲シタル買戻ノ特約ニ依リ買主カ拂ヒタル代金及ヒ契約ノ費用ヲ返還シテ其賣買ノ解除ヲ爲スコトヲ得但當事者カ別段ノ意思ヲ表示セザリシトキハ不動産ノ果實ト代金ノ利息トハ之ヲ相殺シタルモノト看做ス

第五百七十九條 買戻ノ期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ五年ニ短縮ス

買戻ニ付キ期間ヲ定メタルトキハ後日之ヲ伸長スルコトヲ得ス
買戻ニ付キ期間ヲ定メザリシトキハ二年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五百八十條 賣買契約ト同時ニ買戻ノ特約ヲ登記シタルトキハ買戻ハ第三者ニ對シテモ其効力ヲ生ス登記ヲ爲シタル賃借人ノ權利ハ其殘期一年間ニ限り之ヲ以テ賣主ニ對抗スルコトヲ得但賣主ヲ害スル目的ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百八十一條 賣主ノ債權者カ第四百二十二條ノ規定ニ依リ賣主ニ代ハリテ買戻ヲ爲サント欲スルトキハ買主ハ裁判所ニ於テ選定シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ不動産ノ現時ノ價額ヨリ賣主ヲ返還スヘキ金額ヲ控除シタル殘額ニ達スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ賣主ニ返還シテ買戻權ヲ消滅セシムルコトヲ得

第五百八十二條 賣主ハ期間内ニ代金及ヒ契約ノ費用ヲ

提供スルニ非サレハ買戻ヲ爲スコトヲ得ス
買主又ハ轉得者カ不動産ニ付キ費用ヲ出ダシタルトキ
ハ賣主ハ第九十六條ノ規定ニ從ヒ之ヲ償還スルコト
ヲ要ス但有益費ニ付テハ裁判所ハ賣主ノ請求ニ因リ之
ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

條五百八十三條 不動産ノ共有者ノ一人カ買戻ノ特約ヲ
以テ其持分ヲ賣却シタル後其不動産ノ分割又ハ競賣ア
リタルトキハ賣主ハ買主カ受ケタル若クハ受クヘキ部
分又ハ代金ニ付キ買戻ヲ爲スコトヲ得但賣主ニ通知セ
スシテ爲シタル分割及ヒ競賣ハ之ヲ以テ賣主ニ對抗ス
ルコトヲ得ス

第五百八十四條 前條ノ場合ニ於テ買主カ不動産ノ競落
人ト爲リタルトキハ賣主ハ競賣ノ代金及ヒ第五百八十

二條ニ掲ケタル費用ヲ拂ヒテ買戻ヲ爲スコトヲ得此場
合ニ於テハ賣主ハ其不動産ノ全部ノ所有權ヲ取得ス
他ノ共有者ヨリ分割ヲ請求シタルニ依リ買主カ競落人
ト爲リタルトキハ賣主ハ其持分ノミニ付キ買戻ヲ爲ス
コトヲ得ス

第四節 交換

第五百八十五條 交換ハ當事者カ互ニ金錢ノ所有權ニ非
サル財産權ヲ移轉スルコトヲ約スルニ依リテ其效力ヲ
生ス
當事者ノ一方カ他ノ權利ト共ニ金錢ノ所有權ヲ移轉ス
ルコトヲ約シタルトキハ其金錢ニ付テハ賣買ノ代金ニ
關スル規定ヲ準用ス

第五節 消費貸借

第五百八十六條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ種類、品等及
 コ數量ノ同シキ物ヲ以テ返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手
 方ヨリ金錢其他ノ物ヲ受取ルニ依リテ其效力ヲ生ス
 第五百八十七條 消費貸借ニ依ラスシテ金錢其他ノ物ヲ
 給付スル義務ヲ負フ者アル場合ニ於テ當事者カ其物ヲ
 以テ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタルトキハ消費
 貸借ハ之ニ依リテ成立シタルモノト看做ス
 第五百八十八條 消費貸借ノ豫約ハ爾後當事者ノ一方カ
 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ其效力ヲ失フ
 第五百八十九條 利息附ノ消費貸借ニ於テ物ニ隠レタル
 瑕疵アリタルトキハ貸主ハ瑕疵ナキ物ヲ以テ之ニ代フ
 ルコトヲ要ス但損害賠償ノ請求ヲ妨ケス
 無利息ノ消費貸借ニ於テハ借主ハ瑕疵アル物ノ價額ヲ

返還スルコトヲ得但貸主カ其瑕疵ヲ知リテ之ヲ借主ニ
 告ケサリシトキハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキ
 ハ貸主ハ相當ノ期間ヲ定メテ返還ノ催告ヲ爲スコトヲ
 得

借主ハ何時ニテモ返還ヲ爲スコトヲ得

第五百九十一條 借主カ第五百八十六條ノ規定ニ依リテ
 返還ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ其時ニ於ケ
 ル物ノ價額ヲ償還スルコトヲ要ス但第四百一條第二項
 ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六節 使用貸借

第五百九十二條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ無償ニテ使
 用及ヒ收益ヲ爲シタル後返還ヲ爲スコトヲ約シテ相手

方ヨリ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第五百九十三條 借主ハ契約又ハ其目的物ノ性質ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ其物ノ使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ要ス

借主ハ貸主ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ借用物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得ス
借主カ前二項ノ規定ニ對スル使用又ハ收益ヲ爲シタルトキハ貸主ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第五百九十四條 借主ハ借用物ノ通常ノ必要費ヲ負擔ス此他ノ費用ニ付テハ第五百八十二條第二項ノ規定ヲ準用ス

第五百九十五條 第五百五十條ノ規定ハ使用貸借ニ之ヲ準用ス

第五百九十六條 借主ハ契約ニ定メタル時期ニ於テ借用物ノ返還ヲ爲スコトヲ要ス

當事者カ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ借主ハ契約ニ定メタル目的ニ從ヒ使用及ヒ收益ヲ終ハリタル時ニ於テ返還ヲ爲スコトヲ要ス但其以前ト雖モ使用及ヒ收益ヲ爲スニ足ルヘキ期間ヲ經過シタルトキハ貸主ハ直チニ返還ヲ請求スルコトヲ得

當事者カ返還ノ時期又ハ使用及ヒ收益ノ目的ヲ定メサリシトキハ貸主ハ何時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第五百九十七條 借主ハ借用物ヲ原狀ニ復シテ之ニ附屬セシメタル者ヲ取去スルコトヲ得
第五百九十八條 使用貸借ハ借主ノ死亡ニ因リテ其效力ヲ失フ

第五百九十九條 契約ノ本旨ニ用スル使用又ハ収益ニ因リテ生シタル損害ノ賠償及ヒ借主カ出ダシタル費用ノ償還ハ貸主カ返還ヲ受ケタル時ヨリ一年内ニ之ヲ請求スルコトヲ要ス

第七節 賃貸借

第一款 總則

第六百條 賃貸借ハ當事者ノ一方カ相手方ニ或物

ノ使用及ヒ収益ヲ爲サシムルコトヲ約シ相手方カ之ニ其賃金ヲ拂フコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百一條 處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者カ賃貸借ヲ爲ス場合ニ於テハ其賃貸借ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 樹木ノ栽植又ハ伐採ヲ目的トスル山林ノ賃貸借

ハ十年

二 其他ノ土地ノ賃貸借ハ五年

三 建物ノ賃貸借ハ三年

四 動産ノ賃貸借ハ六個月

第六百二條 前條ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但其期間滿了前土地ニ付テハ一年内建物ニ付テハ三個月内動産ニ付テハ一個月内ニ其更新ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三條 賃貸借ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ賃貸借ヲ爲シタルトキハ其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但更新ノ時ヨリ十年ヲ超ルコトヲ得ス

第一款 賃貸借ノ效力

第六百四條 不動産ノ賃貸借ハ之ヲ登記シタルトキハ爾後其不動産ニ付キ物權ヲ取得シタル者ニ對シテモ其效カヲ生ス

第六百五條 賃貸人ハ賃貸物ノ使用及ヒ收益ニ必要ナル修繕ヲ爲ス義務ヲ負フ

賃貸人カ賃貸物ノ保存ニ必要ナル行爲ヲ爲サント欲スルトキハ賃借人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六百六條 賃貸人カ賃借人ノ意思ニ反シテ保存行爲ヲ爲サント欲スル場合ニ於テ之カ爲メ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百七條 賃借人カ賃借物ニ付キ賃貸人ノ負擔ニ屬スル必要費ヲ出ダシタルトキハ賃貸人ニ對シテ直チニ其

償還ヲ請求スルコトヲ得

賃借人カ有益費ヲ出ダシタルトキハ賃貸人ハ賃貸借終了ノ時ニ於テ第九十六條第二項ノ規定ニ從ヒ其償還ヲ爲スコトヲ要ス但裁判所ハ賃貸人ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第六百八條 收益ヲ目的トスル土地ノ賃借人カ不可抗力ニ因リ借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其收益ノ額ニ至ルマテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得但宅地ノ賃貸借ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百九條 前條ノ場合ニ於テ賃借人カ不可抗力ニ因リ引續キ二年以上借賃ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十條 賃借物ノ一部カ賃借人ノ過失ニ依ラスシ

テ滅失シタルトキハ賃借人ハ其滅失シタル部分ノ割合ニ應シテ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ殘存スル部分ノミニテハ賃借人カ賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十一條 賃借人ハ賃貸人ノ承諾アルニ非サレハ其權利ヲ讓渡シ又ハ賃借物ヲ轉貸スルコトヲ得ス
賃借人カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ賃借物ノ使用又ハ收益ヲ爲サシメタルトキハ賃貸人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百十二條 賃借人カ適法ニ賃借物ヲ轉貸シタルトキハ轉借人ハ賃貸人ニ對シテ直接ニ義務ヲ負フ此場合ニ於テハ借賃ノ前拂ヲ以テ賃貸人ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ賃貸人カ賃借人ニ對シテ其權利ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第六百十三條 借賃ハ動産、建物及ヒ宅地ニ付テハ毎月末ニ其他ノ土地ニ付テハ毎年末ニ之ヲ拂フコトヲ要ス但收穫季節アルモノニ付テハ其季節後遲滞ナク之ヲ拂フコトヲ要ス

第六百十四條 賃借物カ修繕ヲ要シ又ハ賃借物ニ付キ權利ヲ主張スル者アルトキハ賃借人ハ遲滞ナク之ヲ賃貸人ニ通知スルコトヲ要ス但賃貸人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百十五條 第五百九十三條第一項、第五百九十六條第一項及ヒ第五百九十七條ノ規定ハ賃貸借ニ之ヲ準用ス

第三款 賃貸借ノ終了

第六百十六條

當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メサリシトキハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ賃貸借ハ解約申入ノ後左ノ期間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

一 土地ニ付テハ一年

二 建物ニ付テハ一个月

三 貸席及ヒ動産ニ付テハ一日

收穫季節アル土地ノ賃貸借ニ付テハ其季節後次ノ耕作ニ著手スル前ニ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ要ス

第六百十七條

當事者カ賃貸借ノ期間ヲ定メタルモ其一方又ハ各自カ其期間内ニ解約ヲ爲ス權利ヲ留保シタルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六百十八條

賃貸借ノ期間滿了ノ後賃借人カ賃借物ノ

ノ使用又ハ收益ヲ繼續スル場合ニ於テ賃借人カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前賃貸借ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ賃貸借ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百十六條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得前賃貸借ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但敷金ハ此限ニ在ラス

第六百十九條 賃貸借ヲ解除シタル場合ニ於テハ其解除ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス但當事者ノ一方ニ過失アリタルトキハ之ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百二十條 賃借人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賃貸借ニ期間ノ定アルトキト雖モ賃借人又ハ破産管財人ハ第六百十六條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因

リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス
第六百二十一條 第五百九十九條ノ規定ハ、貸借ニ之ヲ
準用ス

第八節 雇傭

第六百二十二條 雇傭ハ當事者ノ一方カ相手方ニ對シテ
勞務ニ服スルコトヲ約シ相手方カ之ニ其報酬ヲ與フル
コトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百二十三條 勞務者ハ其約シタル勞務ヲ終ハリタル
後ニ非サレハ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
期間ヲ以テ定メタル報酬ハ其期間ノ經過シタル後之ヲ
請求スルコトヲ得

第六百二十四條 使用者ハ勞務者ノ承諾アルニ非サレハ
其權利ヲ第三者ニ讓渡スルコトヲ得ス

勞務者ハ使用者ノ承諾アルニ非サレハ第三者ヲシテ自
己ニ代ハリテ勞務ニ服セシムルコトヲ得ス

勞務者カ前項ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ勞務ニ服セシ
メタルトキハ使用者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百二十五條 雇傭ノ期間カ五年ヲ超過シ又ハ當事者
ノ一方若クハ第三者ノ終身間繼續スヘキトキハ當事者
ノ一方ハ五年ヲ經過シタル後何時ニテモ契約ノ解除ヲ
爲スコトヲ得但此期間ハ商工業見習者ノ雇傭ニ付テハ
之ヲ十年トス

前項ノ規定ニ依リテ契約ノ解除ヲ爲サント欲スルトキ
ハ三个月前ニ其豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十六條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メサリシトキ
ハ各當事者ハ何時ニテモ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此

場合ニ於テハ雇傭ハ解約申入ノ後二週間ヲ經過シタルニ因リテ終了ス

期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ解約ノ申入ハ次期以後ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得但其申入ハ當期ノ前半ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

六个月以上ノ期間ヲ以テ報酬ヲ定メタル場合ニ於テハ前項ノ申入ハ三个月前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百二十七條 當事者カ雇傭ノ期間ヲ定メタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各當事者ハ直ニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其事由カ當事者ノ一方ノ過失ニ因リテ生シタルトキハ相手方ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第六百二十八條 雇傭ノ期間滿了ノ後勞務者カ引續キ其

勞務ニ服スル場合ニ於テ使用者カ之ヲ知リテ異議ヲ述ヘサルトキハ前雇傭ト同一ノ條件ヲ以テ更ニ雇傭ヲ爲シタルモノト推定ス但各當事者ハ第六百二十六條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得前雇傭ニ付キ當事者カ擔保ヲ供シタルトキハ其擔保ハ期間ノ滿了ニ因リテ消滅ス但身元保證金ハ此限ニ在ラ

第六百二十九條 第六百十九條ノ規定ハ雇傭ニ之ヲ準用ス

第六百三十條 使用者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ雇傭ニ期間ノ定アルトキト雖モ勞務者又ハ破産管財人ハ第六百二十六條ノ規定ニ依リテ解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ

因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第九節 請負

第六百三十一條 請負ハ當事者ノ一方カ或仕事ヲ完成スルコトヲ約シ相手方カ其仕事ノ結果ニ對シテ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百三十二條 報酬ハ仕事ノ目的物ノ引渡ト同時ニ之ヲ與フルコトヲ要ス但物ノ引渡ヲ要セサルトキハ第六百二十三條第一項ノ規定ヲ準用ス

第六百三十三條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アルトキハ注文者ハ請負人ニ對シ相當ノ期限ヲ定メテ其瑕疵ノ修補ヲ請求スルコトヲ得但瑕疵カ重要ナラサル場合ニ於テ其修補カ過分ノ費用ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス
注文者ハ瑕疵ノ修補ニ代ヘ又ハ其修補ト共ニ損害賠償

ノ請求ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ第五百三十二條ノ規定ヲ準用ス

第六百三十四條 仕事ノ目的物ニ瑕疵アリテ之カ爲メニ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ注文者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但建物其他土地ノ工作物ニ付テハ此限ニ在ラス

第六百三十五條 前二條ノ規定ハ仕事ノ目的物ノ瑕疵カ注文者ヨリ供シタル材料ノ性質又ハ注文者ノ與ヘタル指圖ニ因リテ生シタルトキハ之ヲ適用セス但請負人カ其材料又ハ指圖ノ不適當ナルコトヲ知リテ之ヲ告ケサクシトキハ此限ニ在ラス

第六百三十六條 前三條ニ定メタル瑕疵修補又ハ損害賠償ノ請求及ヒ契約ノ解除ハ仕事ノ目的物ヲ引渡シタル

時ヨリ一年内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第六百三十七條 土地ノ工作物ノ請負人ハ其工作物又ハ地盤ノ瑕疵ニ付テハ引渡ノ後五年間其擔保ノ責ニ任ス但此期間ハ石造、土造、煉瓦造又ハ金屬造ノ工作物ニ付テハ之ヲ十年トス

工作物カ前項ノ瑕疵ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ注文者ハ其滅失又ハ毀損ノ時ヨリ一年内ニ第六百三十三條ノ權利ヲ行使スルコトヲ要ス

第六百三十八條 第六百三十六條及ヒ前條第一項ノ期間ハ普通ノ時効期間内ニ限り契約ヲ以テ之ヲ伸長スルコトヲ得

第六百三十九條 請負人ハ第六百三十三條及ヒ第六百三十四條ニ定メタル擔保ノ責任ヲ負ハサル旨ヲ特約シタ

ルトキト雖モ其知リテ告ケサリシ事實ニ付テハ其責ヲ免ルルコトヲ得ス

第六百四十條 請負人カ仕事ヲ完成セサル間ハ注文者ハ何時ニテモ損害ヲ賠償シテ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得

第六百四十一條 注文者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ請負人又ハ破産管財人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ請負人ハ其既ニ爲シタル仕事ノ報酬及ヒ其報酬中ニ包含セサル費用ニ付キ財團ノ配當ニ加入スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ各當事者ハ相手方ニ對シ解約ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十節 委任

第六百四十二條 委任ハ當事者ノ一方カ法律行為ヲ爲スコトヲ相手方ニ委託シ相手方カ之ヲ承諾スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百四十三條 受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ

第六百四十四條 受任者ハ委任者ノ請求アルトキハ何時ニテモ委任事務處理ノ狀況ヲ報告シ又委任終了ノ後ハ遲滞ナク其顛末ヲ報告スルコトヲ要ス

第六百四十五條 受任者ハ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取りタル金錢其他ノ物ヲ委任者ニ引渡スコトヲ要ス其收取シタル果實モ亦同シ
受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ハ之ヲ委任者ニ移轉スルコトヲ要ス

第六百四十六條 受任者カ委任者ニ引渡スヘキ金額又ハ其利益ノ爲メニ用ユヘキ金額ヲ自己ノ爲メニ消費シタルトキハ其消費シタル日以後ノ利息ヲ拂フコトヲ要ス
尙損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第六百四十七條 受任者ハ特約アルニ非サレハ委任者ニ對シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得ス
受任者カ報酬ヲ受クヘキ場合ニ於テハ委任履行ノ後ニ非サレハ之ヲ請求スル事ヲ得ス但期間ヲ以テ報酬ヲ定メタルトキハ第六百二十三條第二項ノ規定ヲ準用ス
委任者カ受任者ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ其履行ノ半途ニ於テ終了シタルトキハ受任者ハ其既ニ爲シタル履行ノ割合ニ應シテ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第六百四十八條 委任事務ヲ處理スルニ付キ費用ヲ要ス

ルトキハ委任者ハ受任者ノ請求ニ因リ其前拂ヲ爲スコトヲ要ス

第六百四十九條 受任者カ委任事務ヲ處理スルニ必要ト認ムヘキ費用ヲ出シタルトキハ委任者ニ對シテ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

受任者カ必要ト認ムヘキ債務ヲ負擔シタルトキハ委任者ヲシテ自己ニ代ハリテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

受任者カ委任事務ヲ處理スル爲メ自己ニ過失ナクシテ損害ヲ受ケタルトキハ委任者ニ對シテ其賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六百五十條 委任ハ各當事者ニ於テ何時ニテモ之ヲ解除スルコトヲ得

當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ不利ナル時期ニ於テ委任ヲ解除シタルトキハ其損害ヲ賠償スル事ヲ要ス但己ムコトヲ得サル事由アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六百五十一條 第六百十九條ノ規定ハ委任ニ之ヲ準用ス

第六百五十二條 委任ハ委任者又ハ受任者ノ死亡又ハ破産ニ依リテ終了ス受任者カ禁治産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

第六百五十三條 委任終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ受任者其相續人又ハ法定代理人ハ委任者其相續人ハ法定代理人カ委任事務ヲ處理スルコトヲ得ルニ至

ルマテ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

第六百五十四條 委任終了ノ事由ハ其委任者ニ出テタルト受任者ニ出テタルトヲ問ハス之ヲ相手方ニ通知シ又ハ相手方カ之ヲ知リタルトキニ非サレハ之ヲ以テ其相手方ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百五十五條 本節ノ規定ハ法律行爲ニ非サル事務ノ委託ニ之ヲ準用ス

第十一節 寄託

第六百五十六條 寄託ハ當事者ノ一方カ相手方ノ爲メニ保管ヲ爲スコトヲ約シテ或物ヲ受取ルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百五十七條 受寄者ハ寄託者ノ承諾アルニ非サレハ受寄物ヲ使用シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得ス

受寄者カ第三者ヲシテ受寄物ヲ保管セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ第五百五條及ヒ第七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第六百五十八條 無報酬ニテ寄託ヲ受ケタル者ハ受寄物ノ保管ニ付キ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲ス責ニ任ス

第六百五十九條 寄託物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者カ受寄者ニ對シテ訴ヲ提起シ又ハ差押ヲ爲シタルトキハ受寄者ハ遲滞ナク其事實ヲ寄託者ニ通知スルコトヲ要ス

第六百六十條 寄託者ハ寄託物ノ性質又ハ瑕疵ヨリ生シタル損害ヲ受寄者ニ賠償スルコトヲ要ス但寄託者カ

過失ナクシテ性質若クハ瑕疵ヲ知ラザラリシトキ又ハ
受寄者カ之ヲ知リタルトキハ此限ニ在ラス

第六百六十一條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メタル
トキト雖モ寄託者ハ何時ニテモ其返還ヲ請求スルコト
ヲ得

第六百六十二條 當事者カ寄託物返還ノ時期ヲ定メサリ
シトキハ受寄者ハ何時ニテモ其返還ヲ爲スコトヲ得

返還時期ノ定アルトキハ受寄者ハ己ムコトヲ得サル事
由アルニ非サレハ其期限前ニ返還ヲ爲スコトヲ得ス

第六百六十三條 寄託物ノ返還ハ其保管ヲ爲スヘキ場所
ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但受寄者カ正當ノ事由ニ因
リテ其物ヲ轉置シタルトキハ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ
返還スルコトヲ得

第六百六十四條 第六百四十五條乃至第六百四十八條及

ヒ第六百四十九條第一項、第二項ノ規定ハ寄託ニ之ヲ準
用ス

第六百六十五條 受寄者カ契約ニ依リ受寄物ヲ消費スル
コトヲ得ル場合ニ於テハ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用
ス但契約ニ返還ノ時期ヲ定メサリシトキハ寄託者ハ何
時ニテモ返還ヲ請求スルコトヲ得

第十二節 會社

第六百六十六條 會社契約ハ各當事者カ出資ヲ爲シテ共
同ノ事業ヲ營ムコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス
出資ハ勞務ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

第六百六十七條 各社員ノ出資其他ノ會社財産ハ總社員
ノ共有ニ屬ス

第六百六十八條 金錢ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ社員カ其出資ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ其利息ヲ拂フ外尙損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第六百六十九條 會社ノ業務執行ハ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

會社契約ヲ以テ業務ノ執行ヲ委任シタル者數人アルトキハ其過半数ヲ以テ之ヲ決ス

會社ノ常務ハ前二項ノ規定ニ拘ハラズ各社員又ハ各業務執行者之ヲ專行スルコトヲ得但其結了前ニ他ノ社員

又ハ業務執行者カ異議ヲ述ヘタルトキハ此限ニ在ラス
第六百七十條 會社ノ業務執行スル社員ニハ第六百四

十三條乃至第六百四十九條ノ規定ヲ準用ス
第六百七十一條 會社契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ニ

業務ノ執行ヲ委任シタルトキハ其社員ハ正當ノ事由アルニ非サレハ辭任ヲ爲スコトヲ得ス又解任セラレルコトナシ

正當ノ事由ニ因リテ解任ヲ爲スニハ他ノ社員ノ一致アルコトヲ要ス

第六百七十二條 各社員ハ會社ノ業務ヲ執行スル權利ヲ有セサルトキト雖モ其業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第六百七十三條 當事者カ損益分配ノ割合ヲ定メサリシトキハ其割合ハ各社員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ定ム利益又ハ損失ニ付テノミ分配ノ割合ヲ定メタルトキハ其割合ハ利益及ヒ損失ニ共通ナルモノト推定ス

第六百七十四條 會社ノ債權者ハ其債權發生ノ當時社員

ノ損失分擔ノ割合ヲ知ラザリシトキハ各社員ニ對シ均一部分ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第六百七十五條 社員カ會社財産ニ付キ其持分ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ會社及ヒ會社ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

社員ハ清算前ニ會社財産ノ分割ヲ求ムルコトヲ得
第六百七十六條 會社ノ債務者ハ其債務ト社員ニ對スル債權トヲ相殺スルコトヲ得ス

第六百七十七條 會社契約ヲ以テ會社ノ存續期間ヲ定メザリシトキ又ハ或社員ノ終身間會社ノ存續スヘキコトヲ定メタルトキハ各社員ハ何時ニテモ退社ヲ爲スコトヲ得但己ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除ク外會社ノ爲メ不利ナル時期ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

會社ノ存續期間ヲ定メタルトキト雖モ各員ハ己ムコトヲ得サル事由アルトキハ退社ヲ爲スコトヲ得

第六百七十八條 前條ニ掲ケタル場合ノ外社員ハ左ノ事由ニ依リテ退社ス

- 一 死亡
- 二 破産
- 三 禁治産
- 四 除名

第六百七十九條 社員ノ除名ハ正當ノ事由アル場合ニ限り他ノ社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得但除名シタル社員ニ其旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其社員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六百八十條 退社員ト他ノ社員トノ間ノ計算ハ退社

ノ當時ニ於ケル會社財産ノ狀況ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ要ス

退社員ノ持分ハ其出資ノ種類如何ヲ問ハス金錢ヲ以テ之ヲ拂戻スコトヲ得

退社ノ當時ニ於テ未タ結了セサル事項ニ付テハ其結了後ニ計算ヲ爲スコトヲ得

第六百八十一條 會社ハ其目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能ニ因リテ解散ス

第六百八十二條 已ムコトヲ得サル事由アルトキハ各社員ハ會社ノ解散ヲ請求スルコトヲ得

第六百八十三條 第六百十九條ノ規定ハ會社ハ會社契約ニ之ヲ準用ス

第六百八十四條 會社カ解散シタルトキハ清算ハ總社員

共同ニテ又ハ其選任シタル者ニ於テ之ヲ爲ス

清算人ノ選任ハ總社員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第六百八十五條 清算人數人アルトキハ第六百六十九條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十六條 會社契約ヲ以テ社員中ヨリ清算人ヲ選任シタルトキハ第六百七十一條ノ規定ヲ準用ス

第六百八十七條 清算人ノ職務及ヒ權限ニ付テハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス

殘餘財産ハ各社員ノ出資ノ價額ニ應シテ之ヲ分割ス

第十三節 終身定期金

第六百八十八條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己ノ相手方又ハ第三者ノ死亡ニ至ルマテ定期ニ金錢其他ノ物ヲ相手方又ハ第三者ニ給付スルコトヲ約スルニ因リ

テ其效力ヲ生ス

第六百八十九條 終身定期金ハ日割ヲ以テ之ヲ計算ス

第六百九十條 定期金債務者カ定期金ノ元本ヲ受ケタル場合ニ於テ其定期金ノ給付ヲ怠リ又ハ其他ノ義務ヲ履行セサルトキハ相手方ハ元本ノ返還ヲ請求スルコトヲ得但既ニ受取りタル定期金ノ中ヨリ其元本ノ利息ヲ控除シタル殘額ヲ債務者ニ返還スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第六百九十一條 第五百三十二條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六百九十二條 死亡カ定期金債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルトキハ裁判所ハ債權者又ハ其相續人ノ請求ニ因リ相當ノ期間債權ノ存續スルコトヲ宣告スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第六百九十條ニ定メタル權利ノ行使ヲ妨ケス

第六百九十三條 本節ノ規定ハ終身定期金ノ遺贈ニ之ヲ準用ス

第十四節 和解

第六百九十四條 和解ハ當事者カ互ニ讓歩ヲ爲シテ其間ニ存スル爭ヲ止ムルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

第六百九十五條 當事者ノ一方カ和解ニ依リテ爭ノ目的タル權利ヲ有スルモノト認メラレ又ハ相手方カ之ヲ有セサルモノト認メラレタル場合ニ於テ其者カ從來此權利ヲ有セサリシ確證又ハ相手方カ之ヲ有セシ確證出テ

タルトキハ其權利ハ和解ニ因リテ其者ニ移轉シ又ハ消滅シタルモノトス

第三章 事務管理

第六百九十六條 義務ヲクシテ他人ノ爲メニ事務ノ管理ヲ始メタル者ハ其事務ノ性質ニ從ヒ最モ本人ノ利益ニ適スヘキ方法ニ依リテ其管理ヲ爲スコトヲ要ス
管理者カ本人ノ意思ヲ知リタルトキ又ハ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキトキハ其意思ニ從ヒテ管理ヲ爲スコトヲ要ス

第六百九十七條 管理者カ本人ノ身體、名譽又ハ財産ニ對スル急迫ノ危害ヲ免レシムル爲メニ其事務ノ管理ヲ爲シタルトキハ惡意又ハ重大ナル過失アルニ非サレハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス

第六百九十八條 管理者ハ其管理ヲ始メタルコトヲ遲滞ナク本人ニ通知スルコトヲ要ス但本人カ既ニ之ヲ知レルトキハ此限ニ在ラス

第六百九十九條 管理者ハ本人、其相續人又ハ法定代理人カ管理ヲ爲スコトヲ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但其管理ノ繼續カ本人ノ意思ニ反シ又ハ本人ノ爲メニ不利ナルコト明カナルトキハ此限ニ在ラス
第七百條 第六百四十四條乃至第六百四十六條ノ規定ハ事務管理ニ之ヲ準用ス

第七百一條 管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル費用ヲ出ダシタルトキハ本人ニ對シテ其償還ヲ請求スルコトヲ得
管理者カ本人ノ爲メニ有益ナル債務ヲ負擔シタルトキハ第六百四十九條第二項ノ規定ヲ準用ス

反理者カ本人ノ意思ニ反シテ管理ヲ爲シタルトキハ本人カ現ニ利益ヲ受クル限度ニ於テノミ前二項ノ規定ヲ適用ス

第四章 不當利得

第七百二條 法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産又ハ勞務ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第七百三條 惡意ノ受益者ハ其受ケタル利益ニ利息ヲ附シテ之ヲ返還スルコトヲ要ス尙ホ損害アリタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第七百四條 債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知りタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

第七百五條 債務者カ辨濟期ニ在ラサル債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタルトキハ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但債務者カ錯誤ニ因リテ其給付ヲ爲シタルトキハ債權者ハ之ニ因リテ得タル利益ヲ返還スルコトヲ要ス

第七百六條 債務者ニ非サル者カ錯誤ニ因リテ債務ノ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ善意ニテ證書ヲ毀滅シ、擔保ヲ拋棄シ又ハ時効ニ因リテ其債權ヲ失ヒタルトキハ辨濟者ハ返還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ハ辨濟者ヨリ債務者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百七條 不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ其給

付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ス但不法ノ原因カ受益者ニ付テノミ存シタルトキハ此限ニ在ラス

第五章 不法行為

第七百八條

故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第七百九條

他人ノ身體自由又ハ名譽ヲ害シタル場合ト財産權ヲ害シタル場合トヲ問ハス前條ノ規定ニ依リテ損害賠償ノ責ニ任スル者ハ財産以外ノ損害ニ對シテモ其賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十條

他人ノ生命ヲ害シタル者ハ被害者ノ父母配偶者及ヒ子ニ對シテハ其財産權ヲ害セラレザリシ場合ニ於テモ損害ノ賠償ヲ爲スコトヲ要ス

第七百十一條

未成年者カ他人ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ

於テ其行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘザリシトキハ其行為ニ付キ賠償ノ責ニ任セス

第七百十二條

心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ賠償ノ責ニ任セス但故意又ハ過失ニ因リテ一時ノ心神喪失ヲ招キタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十三條

前二條ノ規定ニ依リ無能力者ニ責任ナキ場合ニ於テ之ヲ監督スヘキ法定ノ義務アル者ハ其無能力者カ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但監督義務者カ其義務ヲ怠ラザリシトキハ此限ニ在ラス
監督義務者ニ代ハリテ無能力者ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十四條

或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償

スル責ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス
使用者ニ代ハリテ事業ヲ監督スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

前二項ノ規定ハ使用者又ハ監督者ヨリ被用者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

第七百十五條 注文者ハ請負人カ其仕事ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任セス但注文又ハ指圖ニ付キ注文者ニ過失アリタルトキハ此限ニ在ラス

第七百十六條 土地ノ工作物ノ設置又ハ保存ニ瑕疵アルニ因リテ他人ニ損害ヲ生シタルトキハ其工作物ノ占有者ハ被害者ニ對シテ損害賠償ノ責ニ任ス但占有者カ損

害ノ發生ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲シタルトキハ其損害ハ所有者之ヲ賠償スルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ竹木ノ栽植又ハ支持ニ瑕疵アル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ他ニ損害ノ原因ニ付キ其責ニ任スヘキ者アルトキハ占有者又ハ所有者ハ之ニ對シテ求償權ヲ行使スルコトヲ得

第七百十七條 動物ノ占有者ハ其動物カ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス但動物ノ種類及ヒ性質ニ從ヒ相當ノ注意ヲ以テ其保管ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス
占有者ニ代ハリテ動物ヲ保管スル者モ亦前項ノ責ニ任ス

第七百十八條 數人カ共同ノ不法行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ各自連帶ニテ其賠償ノ責ニ任ス共同行爲者中ノ孰レカ其損害ヲ加ヘタルカヲ知ルコト能ハサルトキ亦同シ

教唆者及ヒ幫助者ハ之ヲ共同行爲者ト看做ス

第七百十九條 他人ノ不法行爲ニ對シ自己又ハ第三者ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得スシテ加害行爲ヲ爲シタル者ハ損害賠償ノ責ニ任セス但被害者ヨリ不法行爲ヲ爲シタル者ニ對スル損害賠償ノ請求ヲ妨ケス前項ノ規定ハ他人ノ物ヨリ生シタル急迫ノ危難ヲ避クル爲メ其物ヲ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七百二十條 胎兒ハ損害賠償ノ請求權ニ付テハ既ニ生マレタルモノト看做ス

第七百二十一條 第四百十六條ノ規定ハ不法行爲ニ因ル

損害ノ賠償ニ之ヲ準用ス

被害者ニ過失アリタルトキハ裁判所ハ損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第七百二十二條 他人ノ名譽ヲ毀損シタル者ニ對シテハ裁判所ハ被害者ノ請求ニ因リ損害賠償ニ代ヘ又ハ損害賠償ト共ニ名譽ヲ回復スルニ適當ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第七百二十三條 不法行爲ニ因ル損害賠償ノ請求權ハ被害者又ハ其法定代理人カ損害及ヒ加害者ヲ知りタル時ヨリ三年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス不法行爲ノ時ヨリ二十年ヲ經過シタルトキ亦同シ

Faint, illegible text from an adjacent page, likely bleed-through or a separate column of writing.

終